



マルハニチロ株式会社

# Communication on Progress

2014 年度

\*対象期間：2013年4月～2014年3月まで

連絡先

マルハニチロ株式会社 経営企画部 課長 小林 三千夫

Email: [mic-kobayashi@maruha-nichiro.co.jp](mailto:mic-kobayashi@maruha-nichiro.co.jp)

【全般】

コミュニケーション・オン・プログレス (COP) の対象期間

開始：2013年4月      終了：2014年3月

最高責任者 (CEO) による継続的支持の表明

2014年9月1日

ステークホルダーの皆様へ

マルハニチログループは、国連グローバル・コンパクトの10原則に引き続き賛同することを表明いたします。

マルハニチログループは、役職員一人ひとりが、日々の業務においてグループ理念を実践するための行動基準として、「CSR 行動基準 10 カ条」を制定しています。この行動基準は、国連グローバル・コンパクトの10原則と対応するために、2012年3月に改訂を行い、以来、全従業員に対する浸透活動を、教育研修などを通じて継続して行っています。

当コミュニケーション・オン・プログレスでは、「マルハニチログループ CSR 経営中期目標」に基づき、当グループの取り組みの概要について報告しています。取り組みの詳細については、マルハニチロホームページにてご報告していますので、併せてご参照いただければ幸いです。

マルハニチロ株式会社

代表取締役社長

伊藤 滋

## 【人権原則】

### 目標、方針

#### ■目標

- I .法定障がい者雇用率の達成に向けて引き続き取り組みます。
- II .法令遵守はもとより、安全安心を最優先にした商品とサービスを提供します。

#### ■方針

- I -①.障がい者雇用の促進を図り法定障がい者雇用率 1.8%（2013 年度）を達成します。
- II -①.お客さまへの対応を誠実・迅速・確実に実行し、その声を商品と業務の改善に活かします。
- II -②.従業員の知見や技術のレベルアップを図るため、教育訓練制度の改善を図ります。

### 実施状況

- I -①-a.障がい者に適した業務の整理と集約による、障がい者が働きやすい職場づくり。
- II -①-a.顧客対応満足度調査の実施と業務改善。
- II -①-b.お客さまの声情報の社内共有と商品・サービス改善。
- II -①-c.苦情対応研修実施。
- II -②-a.品質管理研修実施。

### 成果測定

- I -①-a.対象グループ会社における障がい者雇用率  
(株)マルハニチロ水産：2.36%、(株)マルハニチロ食品：1.9%。
- II -①-a.顧客対応満足度調査結果：4.38 点/5 点満点（対前年+0.09 点）
- II -①-b.お客さまの声を反映した商品・サービス改善 22 件実施。
- II -①-c.苦情対応に関する研修 9 回実施、313 名受講。
- II -②-a.品質管理に関する研修 8 回実施、267 名受講。

## 【労働基準原則】

### 目標、方針

#### ■目標

I .働きがいのある職場づくりとワークライフバランスの実現に向けて取り組んでいきます。

#### ■方針

I -①.有給休暇取得の促進に努めます。

I -②.時間外労働の削減に努めます。

I -③.育児休職制度の活用を推進します。

### 実施状況

I -①.計画休暇取得推進、休暇取得強化月間設置を継続して実施。

I -②.ノー残業 Day の設置(毎週水曜日)、各職場に労働安全衛生委員会を設置して改善。

I -③.育児休職に関する悩み、不安を解消するために年 1 回、経験者を交えてミーティングを実施。

### 成果測定

I -①.2013 年度の有給休暇取得日数は、平均 8.1 日。(対前年±0 日)

I -②.2013 年度の時間外労働の平均は月間 20 時間 23 分。(対前年+34 分)

I -③.2013 年度の育児休職制度利用者は 19 名。

## 【環境原則】

### 目標、方針

#### ■目標

I. 省エネ・省資源に努め温暖化ガスを削減するとともに、廃棄物の削減に努めます。

#### ■方針

I-①.マルハニチログループのCO<sub>2</sub>排出量を2010年度比03%以上削減します。

I-②.マルハニチログループ国内生産工場において、廃棄物総排出量を2010年度比3%以上削減します。

I-③.オフィス環境対策としてOA用紙の低減を図り、2010年度比3%以上削減します。

### 実施状況

I-①-a.クールビズ実施。

I-①-b.生産工場設備を省エネ化。

I-①-c.既存設備運転の効率化。

I-①-d.LED照明導入。

I-①-e.デマンドコントローラ設置による監視体制強化。

I-②-a.廃棄物の有価物化。

I-②-b.設備トラブルによる廃棄物の削減。

I-②-c.工程改善による不良製品発生抑制。

I-③-a.ペーパーレス化推進。

I-③-b.社内用ITネットワークシステムの導入と活用

### 成果測定

I-①.2013年度のCO<sub>2</sub>排出量は、2010年度比1.4%増加。

I-②.2013年度の廃棄物総排出量は、2010年度比14%増加。

I-③.2013年度のOA用紙使用量は、2010年度比0.5%の削減。

※2013年度の数値には、2011年度以降にグループ入りした2社の数値を加算しています。

## 【腐敗防止原則】

### 目標、方針

#### ■目標

I. 企業市民として、本業を通じた社会的課題の解決に積極的に取り組み、人々の豊かな生活文化の創造に貢献いたします。

#### ■方針

I-①.社会の持続可能性に貢献できる社員を育成するために、社内教育・研修体制を整備いたします。

### 実施状況

I-①-a.階層別 CSR コンプライアンス研修実施。

I-①-b.全国事業所における CSR コンプライアンス研修実施。

### 成果測定

I-①.新入社員研修、新任管理職研修において CSR 経営とコンプライアンスについて講義。

I-②.全国の事業所 69 か所で CSR コンプライアンス研修を実施し、1950 名の従業員が受講。

以上